

## 1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

### (1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成 家庭・地域・学校協議会 (10)

(家庭、公民館、区長会、民生委員、有識者、青少年育成会、学校)

※地域コーディネーター2名 (前地区自治振興会青少年育成部長、前地区自治振興会青少年育成部長)

### (2) 協議会の内容

※開催日程と協議内容 (開催回数は2回)

第1回 令和元年7月9日 (火)

- ・活動方針の説明
- ・スクールプランや学校行事の説明
- ・地域と学校の連携について

第2回 令和2年2月6日 (木)

- ・学校の取組についての報告
- ・学校評価の結果の分析と考察
- ・次年度の計画

### (3) 協議会における成果と課題

【成果】学校評価の結果より保護者の学校に対する信頼度が100%だったこと、児童が落ち着いて授業に取り組んでいることに感心され高い評価をいただいた。今後も持続できるように励みたい。

【課題】学校公開日と併せたため、協議会の開催が平日だった。そのため、全員が出席できなかった。

## 2 地域と進める体験活動

### (1) 活動のねらい

- 味真野地区を舞台とした自然体験を行うことで、生まれ育ったふるさとへの愛着心を養う。
- 草をかき分けて山道を歩いたり、急な坂道を上ったりする活動を通して、児童にたくましさと生きる力をつける。
- 活動前には児童自身が活動の目的や計画などを話し合い、活動後には活動の成果を十分に振り返りまとめることで、児童の思考力や表現力を高める。

### (2) 活動の実際 (第5学年)

#### ①「鞍谷の7ふしぎ」の調査・実証

昭和45年発行の冊子に詳しく記載されている「鞍谷の7ふしぎ」。一説には350年も前から村人に言い伝えられたという、いわば"ご先祖様からの言い伝え"なのであるが、今では地元のお年寄りですら知人が少なくなってしまう。その「鞍谷の7ふしぎ」に興味を持った子供たちは、このまま放っておいたら、存在そのものが歴史から消え去ってしまうと危機感を感じた。そこで7ふしぎを一つ一つ調査・検証し、広くアピールしていくことにした。

まずは、今でも伝わっている情報を少しでも集めるため、鞍谷に住む人たちにインタビューを行った。3人1組になって、1軒1軒訪問して回る。中には、偶然通りかかっただけの、全然鞍谷とは関係のないサイクリングの人までつかまえて聞き取りをしているグループもあった。そのとき、ある1つのグループが聞いてきた情報が、今回最大のスクープ、小南清水の発見につながる。というのも小南清水は、鞍谷のことなら何でも知っている地元の有識者ですら聞いたことがないという、幻の清水だったからだ。その清水を、子供のときに行ったことがあるというお年寄りを見つけ、記憶をたどりながら、山の中を案内してもらうことができた。

はじめて見た小南清水は、水の湧き口が土で半分ふさがれ、伸び放題になっている草木にかくれ、



みすぼらしくてとても清水のように見えなかった。おそらく何十年も、この場所を訪れた人はいなかったからだろう。噴水のような清水を想定していた子供たちはみんな、「えっ、ちっちゃ」と、がっかりした。しかし、この日のために集まった保護者も合わせて約60人が周囲の草を刈り、散乱していた木の枝や朽ちた枯れ木、杉葉などを集めてきれいにすると、清水はびっくりするほどほとぼしるようになり、みるみるうちに水をたたえ始めた。小南清水は数十年ぶりに息を吹き返したのだ。大喜びした子供たちは、次々に水をさわったり、飲んだりしていた。そして、小南清水の横に目印となる木の杭を打ち、その隣には20才の自分への手紙を書いたタイムカプセルを埋めた。

10年後、子供たちはこの場所に集うことになる。この日のことを懐かしく思い出すと同時に、小南清水を言い伝えるぞ、ふるさと味真野を大事にするぞ、と再度固く決意してくれるに違いない。

## ②稲作活動

のびやかに田んぼが広がる味真野地区であっても、5年生児童の田植え経験者は皆無に等しい。そんな"初心者"に対し、ボランティアで集まってくださった地域の方々には、田植えの処方一つ一つを丁寧に教えてくださった。まずは「田植え定規」・「コロ」などと呼ばれる道具を使い、苗を植えるポイントを定める。その後に田植え。コシヒカリの苗を手にとり、児童は生まれて初めておそろおそろ、田のぬかるみに足を差し入れた。活動後、「苗がなくなったとき、もっともっと田植えを続けていたかった。」と児童は話し、ボランティアの方も、「今年の子は筋がいいわ。」と子供たちを褒めてくださった。

6～7月、児童はかかしを作った。話し合いでかかしはディズニーのキャラクターに統一することを決め、できる限り自分たちの手で作業を進めた。竹を切り、わらをしばり、布を縫い、きりで穴を開け、針金をくくり…。はじめは一人が一人で作業に挑んでいたが、いつの間にか一つの作業を何人かでするようになっていた。

稲刈りでは、稲刈り鎌を手にするのはもちろん初めてだという児童ばかりが揃う中、ボランティアとして集まってくださった地域の方々には田植え同様、稲刈り鎌の使い方から刈り方、最後は稲をはき場にかけるための束ね方まで、分かりやすく教えてくださった。最後に刈り取った稲すべてを手分けしてコンバインまで運び、同時に行った脱穀では、できたばかりの穂をさわって、その温かさに子供たちは歓声を上げていた。



## (3) 地域コーディネーターの活動概要

- ・児童の活動への協力・アドバイスおよび地域への宣伝
- ・活動内容に関する地域の専門家の紹介

## (4) 特に工夫した事項

- ・1年間、児童が取り組みを続けるにあたり、活動が児童や指導者にとって夢のあるわくわくするようなものになるよう創意工夫をした。
- ・体験のための体験にならないよう、指導者と児童が常に目的を明確に持って活動した。

## (5) 成果と課題

【成果】1年中、児童は『ふるさと味真野』を常に意識して活動することで、郷土愛は確実に深まっていると感じる。また、地域の大人とともに活動することで、大人の持つ高い知識や文化を教えてもらえる機会が増えたことは、子供たちにとって貴重な経験となった。「鞍谷の7ふしぎ」を歴史に残せたことで、児童の自己有用感も高まったのではないかと感じる。

【課題】児童の活動時間（平日昼）と地域コーディネーターの活動時間（夜・休日）のずれに対し、適切な対応を取ることができていれば、より効果的な教育活動ができたのではないかと感じる。